

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 09-327478

(43)Date of publication of application : 22.12.1997

(51)Int.Cl.

A61F 13/15

(21)Application number : 09-077832 (71)Applicant : KAO CORP

(22)Date of filing : 28.03.1997 (72)Inventor : TAKITA HIROMI
MURAI ATSUSHI
KIGATA TETSUYUKI
NAKANISHI MINORU

(30)Priority

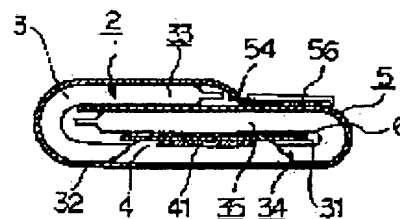
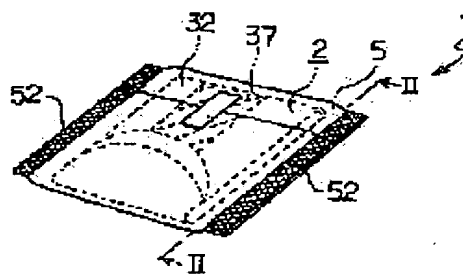
Priority number : 08 90847 Priority date : 12.04.1996 Priority country : JP

(54) PACKAGE STRUCTURE FOR ABSORPTIVE MATTER AND PRODUCTION METHOD THEREOF

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide an easily fitting and convenient package structure for an absorptive matter, by dividing an absorptive matter adhered to a package material into a wing folding part, a front part, and a rear part, and forming a protecting member for the adhesive wing part whose side end part is fixed to the longitudinal side end part of the package material.

SOLUTION: This package structure comprises a sanitary napkin 2 which has a main body 3, a pair of wing parts 4 in right and left sides, a main body adhesive part 37 on a non-skin-contact face 32 side of the main body 3, and a wing adhesive part 41 on a non-skin-contact part 32 side of the wing part 4, and a package material 5 to individually package the sanitary napkin 2. The wing part 4 is folded toward a skin contact part 31 side and the sanitary napkin 2 is adhered to the package material 5 so that a main body adhesive part 37 abuts on the inner face 54 of the package material 5. The sanitary napkin 2 is divided into a wing folding part 34, a front part 33, and a rear part 35 in the longitudinal direction, and the side edge parts of a wing adhesive part protecting member 6 are set and fixed on the longitudinal side edge parts of the package material 5.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision
of rejection]

[Kind of final disposal of application other
than the examiner's decision of rejection
or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of requesting appeal against
examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-327478

(43) 公開日 平成9年(1997)12月22日

(51) Int. Cl. ⁶

識別記号

F I

A61F 13/15

A61F 13/18

370

審査請求 未請求 請求項の数 8 O L (全9頁)

(21) 出願番号 特願平9-77832

(22) 出願日 平成9年(1997)3月28日

(31) 優先権主張番号 特願平8-90847

(32) 優先日 平8(1996)4月12日

(33) 優先権主張国 日本 (J P)

(71) 出願人 000000918

花王株式会社

東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号

(72) 発明者 滝田 浩美

栃木県芳賀郡市貝町赤羽2606 花王株式会
社研究所内

(72) 発明者 村井 淳

栃木県芳賀郡市貝町赤羽2606 花王株式会
社研究所内

(72) 発明者 木賀田 哲行

栃木県芳賀郡市貝町赤羽2606 花王株式会
社研究所内

(74) 代理人 弁理士 羽鳥 修 (外1名)

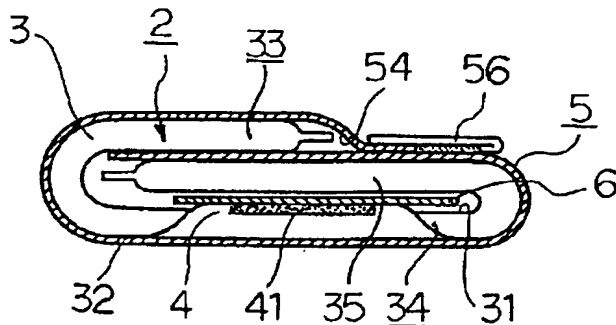
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 吸収性物品の包装構造及びその製造方法

(57) 【要約】

【課題】 装着操作が簡便で、包装材と別に剥離紙が必要なく、生産性が良好で、材料使用量も少なく、コンパクトな吸収性物品の包装構造を提供すること。

【解決手段】 本体3及び左右一对のウイング部4を有し、本体3に本体粘着部37が、また該ウイング部4にウイング粘着部41が、それぞれ設けられている吸収性物品における該本体粘着部37を該包装材5の内面54に剥離自在に粘着させてなり、該ウイング部4は肌当接面31側に向けて折り曲げられており、該吸収性物品2は、その長手方向に、ウイング折曲部34、前方部33、及び後方部35に区分されており、該包装材5における該後方部35に当接する部分には、長形状のウイング粘着部保護部材6が、該ウイング粘着部保護部材6の長手方向一端縁61を該包装材5の長手方向側縁部に固着して設けられている吸収性物品の包装構造1。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 本体及び該本体の左右両側に設けられた左右一対のウイング部を有し、該本体の非肌当接面側に本体粘着部が設けられ且つ該ウイング部の非肌当接面側にウイング粘着部が設けられている吸収性物品と、これを個装する包装材とからなり、該本体粘着部と該包装材の内面とを剥離自在に粘着させてなる吸収性物品の包装構造において、

上記ウイング部は、肌当接面側に向けて折り曲げられており、

上記吸収性物品は、上記本体粘着部の略全面が上記包装材の内面に当接するように該包装材に粘着されており、上記包装材に粘着された上記吸収性物品は、その長手方向において、上記ウイング部が折り曲げられているウイング折曲部、該ウイング折曲部の前方に位置する前方部、及び該ウイング折曲部の後方に位置する後方部に区分されており、

上記包装材には、ウイング粘着部保護部材が、該ウイング粘着部保護部材の端縁部を上記包装材の長手方向側縁部に固着して設けられている、
ことを特徴とする吸収性物品の包装構造。

【請求項 2】 上記ウイング粘着部保護部材は、上記包装材における上記ウイング折曲部に当接する部分又は上記後方部に当接する部分に設けられていることを特徴とする請求項 1 記載の吸収性物品の包装構造。

【請求項 3】 上記ウイング粘着部保護部材は、長方形状であり、その長手方向一端縁が、上記包装材における上記後方部と当接する部分の長手方向側縁部に固着されていることを特徴とする請求項 2 記載の吸収性物品の包装構造。

【請求項 4】 上記ウイング粘着部保護部材は、長方形状であり、その長手方向両端縁が、上記包装材における上記後方部と当接する部分の長手方向両側縁部に固着されていることを特徴とする請求項 2 記載の吸収性物品の包装構造。

【請求項 5】 上記ウイング粘着部保護部材は、長方形状であり、その長手方向一端縁が、上記包装材における上記ウイング折曲部に当接する部分の長手方向側縁部に固着されていることを特徴とする請求項 2 記載の吸収性物品の包装構造。

【請求項 6】 上記ウイング粘着部保護部材は、長方形状であり、その長手方向両端縁が、上記包装材における上記ウイング折曲部に当接する部分の長手方向両側縁部に固着されていることを特徴とする請求項 2 記載の吸収性物品の包装構造。

【請求項 7】 請求項 1 記載の吸収性物品の包装構造の製造方法であって、本体粘着部及びウイング部粘着部が形成されていない吸収性物品におけるウイング部を肌当接面側に折り返すウイング部折り込み工程、ウイング粘着部保護部材の連続材上に所定間隔で粘着剤を塗布し、

所定形状に切断するウイング粘着部保護部材形成工程、上記粘着剤が上記ウイング部に転写されるように上記ウイング粘着部保護部材を該ウイング部に当接させる転写工程、所定位置に粘着剤が塗布された包装材上に、該粘着剤と非肌当接面とが当接するように吸収性物品を載置して、本体粘着部を形成する本体粘着部形成工程、及び包装材と吸収性物品とを一体に折り畳んで、所定位置を封止する封止工程を行うことを特徴とする吸収性物品の包装構造の製造方法。

10 【請求項 8】 上記転写工程が、更に該ウイング粘着部保護部材の所定箇所に接着剤を塗布する接着剤塗布工程を具備することを特徴とする請求項 5 記載の吸収性物品の包装構造の製造方法。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】 本発明は、吸収性物品の包装構造に関し、特に、ウイング部付の吸収性物品を、そのズレ止め性を低下させることなく、コンパクトに個装してなり、且つ取り出し性にも優れた吸収性物品の包装構造に関する。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】 吸収性物品としては、本体及び該本体の左右両側に設けられた左右一対のウイング部を有する生理用ナプキン等、ウイング部を有するものが広く用いられている。このウイング部は、吸収性物品をショーツ等の下着に巻き付けるように固定して使用するためのものである。従来、このようなウイング部を有する生理ナプキン等を個装する包装構造においては、本体の粘着部及びウイング部の粘着部を被覆すべく、剥離材が個装材とは別に用いられていた。このため、上記包装構造では、生理用ナプキンを装着する際には、本体の粘着部及びウイング部の粘着部を保護している剥離材を取り外す手間が必要となるだけでなく、取り外した剥離材がゴミとなって残るという問題があった。更には、剥離材を取り外してから、生理用ショーツ等の下着に取り付けるまでの間、本体の粘着部及びウイング部の粘着部が被覆されていない状態となり、しかもゴミである上記剥離剤も存在するため、装着操作を誤りやすい等、取扱い易さの点で問題があり、これにより本体の粘着部とウイング部の粘着部の相互接着が生じる危険性が高く、結果的に、吸収性物品の有する本来の効果を十分に発揮できない場合が多いという問題もあった。そして、このような問題は、漏れない吸収性物品を提供する上で障害となっていた。

【 0 0 0 3 】 そこで、上記の問題点を解消するために、吸収性物品の包装構造について種々改良がなされている。例えば、従来のウイング付きの生理用ナプキンの包装構造としては、特表平 5 - 5 0 6 7 9 9 号公報においては、ウイング部に設けられた粘着部を、該ウイング部を生理用ナプキンの表面シート側に折り返し、該粘着部

を剥離紙で保護してなる包装構造が提案されている。しかしながら、このような包装構造においては、装着時において、ウイング部の粘着部を保護している剥離紙を取り外す手間が必要であると共に、剥離紙がゴミとなってしまうため、取扱い易さの点の問題が解消されていない。更には、別部材を必要とするため、製造過程が煩雑となり生産性が悪くなったり、コストも高くなるという問題がある。

【0004】また、実開平 7 - 3 9 8 2 0 号公報には、ウイング部をナプキンの表面シート上に折り重ね、包装材の長手方向両端部を生理用ナプキンの長手方向両端部よりも外方に延出させ、一方の端縁において、延出させた包装材を表面シート上に折り重ねて、その外面上に設けられた剥離部により、上記ウイング部の粘着部を保護してなる生理用ナプキンの包装構造が提案されている。

【0005】しかし、このような包装構造においては、包装材の一方の長手方向端縁部を、これに対応する生理用ナプキンの一方の長手方向端縁部よりも外方に延出させて、ウイング部の粘着部を保護できるようにする必要があるため、大量の包装材が必要となり、コストが上がるという問題があり、更には、包装構造がコンパクトでないため持ち運び等において不便であるという問題があった。

【0006】従って、本発明の目的は、装着操作が簡便で手間がかからず（取扱いが容易で、生理用ナプキン等の吸収性物品の漏れ防止性能等の効果が損なわれることがなく）更には、包装材と別に剥離紙を設ける必要がなく、生産性が良好で、材料の使用量も少なくすみ、コンパクトに生理用ナプキン等の吸収性物品を個装できる吸収性物品の包装構造を提供することにある。

【0007】

【課題を解決するための手段】本発明者らは、上記問題を解消するために鋭意検討した結果、包装材にウイング粘着部の保護部材を設けた包装構造が上記目的を達成しうることを知見した。

【0008】本発明は、上記知見に基づいてなされたもので、本体及び該本体の左右両側に設けられた左右一対のウイング部を有し、該本体の非肌当接面側に本体粘着部が設けられ且つ該ウイング部の非肌当接面側にウイング粘着部が設けられている吸収性物品と、これを個装する包装材とからなり、該本体粘着部と該包装材の内面とを剥離自在に粘着させてなる吸収性物品の包装構造において、上記ウイング部は、肌当接面側に向けて折り曲げられており、上記吸収性物品は、上記本体粘着部の略全面が上記包装材の内面に当接するように該包装材に粘着されており、上記包装材に粘着された上記吸収性物品は、その長手方向において、上記ウイング部が折り曲げられているウイング折曲部、該ウイング折曲部の前方に位置する前方部、及び該ウイング折曲部の後方に位置する後方部に区分されており、上記包装材には、ウイング

粘着部保護部材が、該ウイング粘着部保護部材の端縁部を上記包装材の長手方向側縁部に固着して設けられていることを特徴とする吸収性物品の包装構造を提供するものである。

【0009】本発明は、上記ウイング粘着部保護部材は、上記包装材における上記ウイング折曲部に当接する部分又は上記後方部に当接する部分に設けられている吸収性物品の包装構造を提供するものである。

【0010】本発明は、上記ウイング粘着部保護部材は、長形状であり、その長手方向一端縁が、上記包装材における上記後方部と当接する部分の長手方向側縁部に固着されている吸収性物品の包装構造を提供するものである。

【0011】本発明は、上記ウイング粘着部保護部材は、長形状であり、その長手方向両端縁が、上記包装材における上記後方部と当接する部分の長手方向両側縁部に固着されている吸収性物品の包装構造を提供するものである。

【0012】本発明は、上記ウイング粘着部保護部材は、長形状であり、その長手方向一端縁が、上記包装材における上記ウイング折曲部に当接する部分の長手方向側縁部に固着されている吸収性物品の包装構造を提供するものである。

【0013】本発明は、上記ウイング粘着部保護部材は、長形状であり、その長手方向両端縁が、上記包装材における上記ウイング折曲部に当接する部分の長手方向両側縁部に固着されている吸収性物品の包装構造を提供するものである。

【0014】また、本発明は、上記包装構造の好ましい製造方法として、本体粘着部及びウイング部粘着部が形成されていない吸収性物品におけるウイング部を肌当接面側に折り返すウイング部折り込み工程、ウイング粘着部保護部材の連続材上に所定間隔で粘着剤を塗布し、所定形状に切断するウイング粘着部保護部材形成工程、上記粘着剤が上記ウイング部に転写されるように上記ウイング粘着部保護部材を該ウイング部に当接させる転写工程、所定位置に粘着剤が塗布された包装材上に、該粘着剤と非肌当接面とが当接するように吸収性物品を載置して、本体粘着部を形成する本体粘着部形成工程、及び包装材と吸収性物品とを一体に折り畳んで、所定位置を封止する封止工程を行うことを特徴とする吸収性物品の包装構造の製造方法を提供するものである。また、本発明は、上記転写工程が、更に該ウイング粘着部保護部材の所定箇所に接着剤を塗布する接着剤塗布工程を具備する上記の吸収性物品の包装構造の製造方法を提供するものである。

【0015】

【発明の実施の形態】以下、図面を参照して本発明の吸収性物品の包装構造の一形態としての生理用ナプキンの包装構造について詳細に説明する。

【0016】図1は、本発明の生理用ナプキンの包装構造の第1の形態を示す斜視図であり、図2は、図1におけるII-II断面図であり、図3は、図1に示す包装構造の展開図である。また、図4は、本発明の生理用ナプキンの包装構造の製造方法の概略図である。

【0017】図1及び図2に示す本形態の生理用ナプキンの包装構造1は、本体3及び該本体3の左右両側に設けられた左右一对のウイング部4を有し、該本体3の非肌当接面32側に本体粘着部37が設けられ且つ該ウイング部4の非肌当接面32側にウイング粘着部41が設けられている生理用ナプキン2（図3参照）と、これを個装する包装材5とからなり、該本体粘着部37と該包装材5の内面54とを剥離自在に粘着させてなる。

【0018】更に詳細に説明すると、上記包装構造1に用いられる上記生理用ナプキン2は、図3に示すように、肌当接面31が液透過性のシート材により、また、非肌当接面32が液不透過性のシート材によりそれぞれ形成され、更に上記肌当接面31と非肌当接面32との間に液保持性の吸収体（図示せず）を有し、上記本体粘着部37及び上記ウイング粘着部41も通常の粘着剤を用いて形成された、通常の生理用ナプキンである。また、上記ウイング部4は、ナプキンの長手方向ほぼ中央部に位置している。また、上記本体粘着部37は、上記非肌当接面32の略全面に亘って設けられている。ここで、「略全面に亘って設けられている」とは、後述する前方部33、ウイング折曲部34及び後方部35の何れの箇所にも設けられていることを意味する。

【0019】また、上記包装材5は、図3に示すように、略長形状であり、その前端縁51には包装構造止着用の公知のタブテープ56が設けられている。また、該包装材5は、その内面54全面が剥離処理されており、剥離性を有するものである。尚、本発明においては、内面54全面を剥離処理する必要はなく、その一部、例えば、内面54の周縁部以外の部分のみ剥離処理してなるものを用いることもできる。

【0020】上記包装材5の形成材料は、公知のものを特に制限なく用いることができるが、具体的には、厚さ5～50 μ mのポリプロピレン、ポリエステル、ポリエチレン、ポリビニルアルコール、あるいは不織布や紙、及びこれらの複合材料等の包装材料が挙げられる。また、上記剥離処理は、公知の手法を特に制限なく用いて行うことができるが、具体的には、上記包装材料の内面54全面に、剥離処理剤を塗布するか又は剥離テープ、剥離紙、剥離処理した不織布、剥離処理したポリエチレンラミネート紙若しくは剥離処理したポリエチレンフィルムなどの剥離部材を貼付する等して行うことができる。剥離処理剤あるいは剥離部材の剥離剤成分としてはシリコーン樹脂系、フッ素樹脂系、又はオクタデシルイソシアネート系等のものが好ましい。特に、上記剥離処理としては、上記剥離剤成分として、シリコーン樹脂系

のものを用いて、塗布して加熱乾燥、紫外線照射などにより高分子量化するか、スプレーで吹きつけ薄い被膜を形成させる等するのが好ましい。さらに、薄いポリオレフィンフィルムあるいはポリエステルフィルムを剥離処理し、上記包装材料に熱あるいは超音波等により接合したものが、適度な剛性を有しており、開封し易く、また耐熱性に優れているため生産上有利である。

【0021】而して、図1～3に示すように、本形態の包装構造1において、上記ウイング部4は、肌当接面31側に向けて折り曲げられており、上記生理用ナプキン2は、上記本体粘着部37が上記包装材5の内面54に当接するように該包装材5に粘着されており、上記包装材5に粘着された上記生理用ナプキン2は、その長手方向において、上記ウイング部4が折り曲げられているウイング折曲部34、該ウイング折曲部34の前方に位置する前方部33、及び該ウイング折曲部34の後方に位置する後方部35に区分されており、上記包装材5には、ウイング粘着部保護部材6が、該ウイング粘着部保護部材6の端縁部を上記包装材5の長手方向側縁部に固着して設けられている。

【0022】更に詳述すると、図2及び図3に示すように、上記ウイング粘着部保護部材6は、上記後方部35に当接する部分59に設けられている。また、上記ウイング部4は、肌当接面31側に向けて折り曲げられているため、肌当接面31の表面上において、上記ウイング粘着部41を肌当接面31側に向けて位置している。また、上記非肌当接面32の略全面が上記包装材5に粘着されて、該非肌当接面32上の本体粘着部37全面が該包装材5により保護されている。

【0023】また、上記ウイング折曲部34は、図2及び3に示すように、上記ウイング部4を折り曲げたことにより該ウイング部4が肌当接面31上に位置している部分である。また、該ウイング折曲部34の「前方」及び「後方」とは、通常の使用時において、生理用ナプキンを掴む方、即ちタブテープ側に位置する方を「前方」とし、その反対側を「後方」としたものである。尚、該「前方」及び該「後方」は、便宜上定義されるものであり、これによりナプキンの使用方向等が限定されるものではない。また、上記前方部33、上記ウイング折曲部34及び上記後方部35は、図3の一点鎖線で示される折曲部（以下、本明細書及び図面において「折曲部」という場合には、図中の一点鎖線の部分を指す）で区切られている生理用ナプキンの部分、即ち、図2に示すように包装構造において3層に互いに折り重なる部分を意味する。そして、包装材における「前方部が当接する部分57」、「ウイング折曲部が当接する部分58」及び「後方部が当接する部分59」とは、単に生理用ナプキンと包装材とが当たる部分のみを意味するものではなく、図3に示すように、生理用ナプキンの前方部33、ウイング折曲部34及び後方部35の3つの部位が位置

する、図 3 の一点鎖線で区切られる包装材の 3 つの部位 5 7、5 8、5 9 を意味するものである。

【0024】そして、図 3 に示すように、上記ウイング粘着部保護部材 6 は、長方形状であり、その長手方向一端縁 6 1 を接着剤 6 3 を介して、上記包装材 5 における上記後方部 3 5 と当接する部分 5 9 の長手方向側縁部に固着されている。また、上記ウイング粘着部保護部材 6 は、その表面（図 3 において露出している面であって、上記ウイング粘着部 4 1 と当接する面）が剥離処理されており、これにより、剥離自在に上記ウイング粘着部 4 1 に粘着されている。このような上記ウイング粘着部保護部材 6 の形成材料としては、剥離処理された、ポリオレフィンフィルム、ポリエステルフィルムや紙等が用いられるが、剥離処理可能な材料であれば特に制限されずに用いられる。また、上記接着剤は、直線状に塗布されており、該接着剤としては、主として、初期接着性に優れたゴム系の粘着剤等が用いられる。

【0025】また、上記包装材 5 の前端縁 5 1 は、上記生理用ナプキンの前端縁 3 a よりも外方に延出しており、この際の延長長さ L（図 3 参照）は、1～3 cm とするのが好ましい。また、本形態においては、包装材 5 の後端縁 5 3 は生理用ナプキン 2 の後端縁 3 b よりも短くなされている。また、上記包装材 5 は、その左右両側縁も上記生理用ナプキン 2 の両側縁よりも外方に延出している。

【0026】上記包装材 5 は、図 1 に示すように、その左右両側縁部 5 2 においては、ヒートシールにより封止されており、上記前端縁 5 1 においては、上記タブテープ 5 6 により封止されている。また、上記の左右両側縁部 5 2 においては、ヒートシールすると同時にこのヒートシールされた部分に沿ってミシン目を入れて開封をより容易にするのが好ましい。

【0027】そして、生理用ナプキン 2 の使用に際しては、上記タブテープ 5 6 を引き剥がし、上記左右両側縁部 5 2（ミシン目が設けられている場合には該ミシン目）を切り離して、上記前方部 3 3、上記後方部 3 5、上記後方端部 3 6 の順に開けることにより、図 3 に示すように、包装構造 1 を開封して、生理用ナプキン 2 を矢印方向に引き出す等して使用に供することができる。

【0028】本形態の生理用ナプキン 2 の包装構造 1 は、上述の如く構成されているので、余分なゴミが生じることがなく、夜用等の大きな生理用ナプキン 2 においても、コンパクトに包装できるため、包装構造がコンパクトであり、持ち運びも容易である。また、本発明の包装構造は、包装構造を開封してナプキンを取り出せばすぐに装着できる状態であるため、取り扱い性に優れ、ナプキンの漏れ防止性（ウイング部の機能）を損なうことが少ない。更には、後述するように、容易に製造できる構造であるため、生産性が高く、コストも低い。特に、包装材の側縁部においてウイング粘着部保護部材が固着

されているので、包装構造の開封方向（包装材の長手方向）に長く固定部を設けることができ、包装構造を開封し生理用ナプキンを取り出す際にウイング粘着部保護部材が包装材から剥がれてしまうことがなく、包装構造をスムーズに開封することができる。

【0029】次いで、本発明の生理用ナプキンの包装構造の製造方法の一形態として、上記第 1 の形態の包装構造 1 の製造方法について説明する。本形態の製造方法は、図 4 に示すように、本体粘着部 3 7 及びウイング部粘着部 4 1 が形成されていない生理用ナプキン 2' におけるウイング部 4' を肌当接面 3 1 側に折り返すウイング部折り込み工程（図 4 に示す A）、ウイング粘着部保護部材の連続材 6' 上に所定間隔で粘着剤 4 1' を塗布し、所定形状に切断するウイング粘着部保護部材形成工程（図 4 に示す B）、上記粘着剤 4 1' が上記ウイング部 4' に転写されるように上記ウイング粘着部保護部材 6 を該ウイング部 4' に当接させる転写工程（図 4 に示す C）、所定位置に粘着剤 3 7' が塗布された包装材 5 上に、該粘着剤 3 7' と非肌当接面 3 2 とが当接するように生理用ナプキン 2' を載置して、本体粘着部 3 7 を形成する本体粘着部形成工程（図 4 に示す D）、及び包装材 5 と生理用ナプキン 2 とを一体に折り畳んで、所定位置を封止する封止工程（図 4 に示す E）を行うことにより実施することができる。

【0030】更に詳述すると、上記ウイング部折り込み工程は、通常、ウイング付きナプキンにおける該ウイング部を折り込む方法を特に制限なく用いて行うことができる。尚、該ウイング部折り込み工程においては、該ウイング部 4 の非肌当接面 3 2 側が上記肌当接面 3 1 上に載置され露出する。

【0031】上記ウイング粘着部保護部材形成工程における上記「所定間隔」及び上記「所定形状」は、ウイング部 4 の形状などに応じて任意である。従って、上記粘着剤 4 1' の塗布形状も、ウイング粘着部保護部材 6 a の如く、幅方向両側縁に亘って設けても良く、また、ウイング粘着部保護部材 6 b の如く、幅方向両側縁を残して設けても良い。また、上記粘着剤 4 1' の塗布は、通常の粘着剤塗布装置 B 1 により、粘着剤 4 1' を上記連続体 6' の剥離処理された面に塗布することにより行われる。

【0032】上記転写工程においては、上記ウイング粘着部保護部材形成工程において上記ウイング粘着部保護部材 6 に塗布された粘着剤 4 1' が、上記ウイング部 4 に当接するように、該ウイング粘着部保護部材 6 をナプキン上に載置する。これにより、該粘着剤 4 1' は、該ウイング粘着部保護部材 6 の表面が剥離処理されているため、上記ウイング部 4 に移行し、ウイング部上に転写される。また、上記転写工程は、更に該ウイング粘着部保護部材 6 の所定箇所に接着剤 6 3 を塗布する接着剤塗布工程を具備する。この際、上記接着剤 6 3 の塗布は、

上記ウイング粘着部保護部材 6 の裏面（上記ウイング部 4 の反対側に位置する面）上の一方の端縁 6 1 に、通常の粘着剤塗布装置 C 1 を用いて粘着剤を線状に塗布することにより行われる。また、該粘着剤 6 3 を塗布する位置は、上記ウイング粘着部保護部材 6 を包装材 5 に固着させるために、生理用ナプキン 2 の外方とする必要がある。

【0033】上記本体粘着部形成工程においては、先ず、包装材 5 の所定位置に粘着剤 3 7' を塗布する。ここで、該粘着剤 3 7' の塗布は、通常の粘着剤の塗布方法に従って、包装材の剥離処理された内面 5 4 に粘着剤を塗布することにより行うことができ、また、包装材 5 は、常法に従って、該包装材の連続シート（図示せず）を切断して形成される。そして、この際、該塗布は、切断の前後何れに行ってもよい。次に、この粘着剤 3 7' が塗布された包装材 5 上に、該粘着剤 3 7' と非肌当接面 3 2 とが当接するように生理用ナプキン 2 を載置する。これにより、上記内面 5 4 から上記非肌当接面 3 2 に粘着剤 3 7' が移行して本体粘着部 3 7 が形成される。

【0034】上記封止工程は、生理用ナプキンを、後方部 3 5、前方部 3 3 の順にウイング折曲部 3 4 上に折り畳んで、更に、包装材 5 の側縁部 5 2 をヒートシールし、また、前端縁 5 1 をタブテープ 5 6 により封止することにより行う。

【0035】また、上記工程以外の工程、即ち、生理用ナプキンの製造工程などは、通常の方法を特に制限なく用いて行うことができる。

【0036】次いで、図 5～11 を参照して、本発明の生理用ナプキンの包装構造の第 2～8 の形態について説明する。ここで、図 5 は、本発明の生理用ナプキンの包装構造の第 2 の形態を示す包装構造の展開図であり、図 6 は、本発明の生理用ナプキンの包装構造の第 3 の形態を示す包装構造の展開図であり、図 7 は、本発明の生理用ナプキンの包装構造の第 4 の形態を示す包装構造の展開図であり、図 8 は、本発明の生理用ナプキンの包装構造の第 5 の形態を示す包装構造の展開図であり、図 9 は、本発明の生理用ナプキンの包装構造の第 6 の形態を示す包装構造の展開図であり、図 10 は、本発明の生理用ナプキンの包装構造の第 7 の形態を示す包装構造の展開図であり、図 11 は、本発明の生理用ナプキンの包装構造の第 8 の形態を示す包装構造の展開図である。尚、特に詳述しない点、例えば、生理用ナプキンの構造などについては、上記第 1 の形態においてした説明が適宜適用される。

【0037】図 5 に示す第 2 の形態の生理用ナプキンの包装構造 1 は、上記ウイング粘着部保護部材 6 が、長方形形状であり、上記後方部 3 5 に当接する部分 5 9 において、その長手方向両端部 6 1、6 2 を接着剤 6 3 を介して上記包装材 5 の長手方向両側縁部に接着して、固着さ

れて設けられている。この点以外は、上述した第 1 の形態と同様に形成されている。

【0038】そして、本形態の包装構造は、上記接着剤塗布工程における接着剤の塗布を、上記ウイング粘着部保護部材の長手方向両端部にそれぞれ行う以外は、上述した第 1 の形態の包装構造と同様に製造することができる。

【0039】図 6 に示す第 3 の形態の生理用ナプキンの包装構造 1 は、上記ウイング粘着部保護部材 6 が、長方形形状であり、その長手方向一端縁 6 1 を接着剤 6 3 を介して、上記包装材 5 の上記ウイング折曲部 3 4 に当接する部分 5 8 における長手方向側縁部に接着して、固着されて設けられている。この点以外は、上述した第 1 の形態と同様に形成されている。

【0040】そして、本形態の包装構造は、上記接着剤塗布工程における接着剤の塗布を、上記ウイング粘着部保護部材 6 を上記ウイング部 4 に当接させる前に、該ウイング粘着部保護部材 6 の表面側に対して塗布することにより行う以外は、上述した第 1 の形態の包装構造と同様に製造することができる。

【0041】図 7 に示す第 4 の形態の生理用ナプキンの包装構造 1 は、上記ウイング粘着部保護部材 6 が、長方形形状であり、上記ウイング折曲部 3 4 に当接する部分 5 8 において、その長手方向両端縁 6 1、6 2 を接着剤 6 3、6 3 を介して上記包装材 5 の長手方向両側縁部に接着して、固着されて設けられている。この点以外は、上述した第 1 の形態と同様に形成されている。

【0042】そして、本形態の包装構造は、上記当接・塗布工程における接着剤の塗布を、上記ウイング粘着部保護部材 6 を上記ウイング部 4 に当接させる前に、該ウイング粘着部保護部材 6 の表面側に対して塗布することにより行う以外は、上述した第 1 の形態の包装構造と同様に製造することができる。

【0043】図 8 に示す第 5 の形態の生理用ナプキンの包装構造 1 は、上記ウイング粘着部保護部材 6 が、長方形形状であり、上記後方部 3 5 に当接する部分 5 9 において、その長手方向一端縁部 6 1 をヒートシールにより上記包装材 5 の長手方向側縁部に接着して、固着されて設けられている。この点以外は、上述した第 1 の形態と同様に形成されている。

【0044】そして、本形態の包装構造は、上記接着剤塗布工程を行わず、且つウイング粘着部保護部材 6 の一端縁部 6 1 をヒートシール工程によりヒートシールして包装材 5 に固着している以外は、上述した第 1 の形態の包装構造の実施例と同様にして製造することができる。

【0045】図 9 に示す第 6 の形態の生理用ナプキンの包装構造は、上記ウイング粘着部保護部材 6 が、長方形形状であり、上記後方部 3 5 に当接する部分 5 9 において、その長手方向両端縁部 6 1、6 2 をヒートシールにより上記包装材 5 の長手方向両側縁部に接着して、固着

されて設けられている。この点以外は、上述した第 1 の形態と同様に形成されている。

【0046】そして、本形態の包装構造は、上記接着剤塗布工程を行わず、且つウイング粘着部保護部材 6 の両端縁部 6 1、6 2 をヒートシール工程によりヒートシールして包装材 5 に固着している以外は、上述した第 1 の形態の包装構造の実施例と同様にして製造することができる。

【0047】図 10 に示す第 7 の形態の生理用ナプキンの包装構造 1 は、上記ウイング粘着部保護部材 6 が、長方形状であり、上記ウイング折曲部 3 4 に当接する部分 5 8 において、その長手方向一端縁部 6 1 をヒートシールにより上記包装材 5 の長手方向側縁部に接合して、固着されて設けられている。この点以外は、上述した第 1 の形態と同様に形成されている。

【0048】そして、本形態の包装構造は、上記接着剤塗布工程を行わず、且つウイング粘着部保護部材 6 の一端縁部 6 1 をヒートシール工程によりヒートシールして包装材 5 に固着している以外は、上述した第 1 の形態の包装構造の実施例と同様にして製造することができる。

【0049】図 11 に示す第 8 の形態の生理用ナプキンの包装構造 1 は、上記ウイング粘着部保護部材 6 が、長方形状であり、上記ウイング折曲部 3 4 に当接する部分 5 8 において、その長手方向両端縁部 6 1、6 2 をヒートシールにより上記包装材 5 の長手方向両側縁部に接合して、固着されて設けられている。この点以外は、上述した第 1 の形態と同様に形成されている。

【0050】そして、本形態の包装構造は、上記接着剤塗布工程を行わず、且つウイング粘着部保護部材 6 の両端縁部 6 1、6 2 をヒートシール工程によりヒートシールして包装材 5 に固着している以外は、上述した第 1 の形態の包装構造の実施例と同様にして製造することができる。

【0051】尚、上述の第 2 ～ 8 の形態の包装構造においても、上述した第 1 の形態と同様の効果が奏される。

【0052】尚、本発明の包装構造は、上述した第 1 ～ 第 8 の形態に限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で種々変形が可能である。例えば、上記ウイング部 4 は、ナプキンの長手方向一端部側に偏寄して設けられてもよく、更にこの場合、上記包装構造のように 3 つ折りではなく、2 つ折りや 4 つ折りにした形態とすることもできる。また、上記ウイング粘着部保護部材は、長方形状でなく、正方形状や丸形状等の任意の形状とすることができる。更に、上記ウイング粘着部保護部材が長方形状である場合、上述の各形態においては、該ウイング粘着部保護部材の長手方向と包装材の長手方向とが直交するものを例示して説明したが、ウイング粘着部保護部材の長手方向と包装材の長手方向とが同じ方向となるように、ウイング粘着部保護部材の大きさ及び

配置方向を調整してもよい。

【0053】

【発明の効果】本発明の吸収性物品の包装構造は、包装材と別に剥離紙を設ける必要がなく、生産性が良好で、材料の使用量も少なくすみ、コンパクトに生理用ナプキン等の吸収性物品を個装できる構造である。

【図面の簡単な説明】

【図 1】図 1 は、本発明の生理用ナプキンの包装構造の第 1 の形態を示す斜視図である。

【図 2】図 2 は、図 1 における II-II 断面図である。

【図 3】図 3 は、図 1 に示す包装構造の展開図である。

【図 4】図 4 は、本発明の生理用ナプキンの包装構造の製造方法を示す概略図である。

【図 5】図 5 は、本発明の生理用ナプキンの包装構造の第 2 の形態を示す包装構造の展開図である。

【図 6】図 6 は、本発明の生理用ナプキンの包装構造の第 3 の形態を示す包装構造の展開図である。

【図 7】図 7 は、本発明の生理用ナプキンの包装構造の第 4 の形態を示す包装構造の展開図である。

【図 8】図 8 は、本発明の生理用ナプキンの包装構造の第 5 の形態を示す包装構造の展開図である。

【図 9】図 9 は、本発明の生理用ナプキンの包装構造の第 6 の形態を示す包装構造の展開図である。

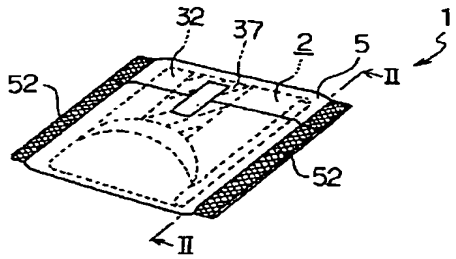
【図 10】図 10 は、本発明の生理用ナプキンの包装構造の第 7 の形態を示す包装構造の展開図である。

【図 11】図 11 は、本発明の生理用ナプキンの包装構造の第 8 の形態を示す包装構造の展開図である。

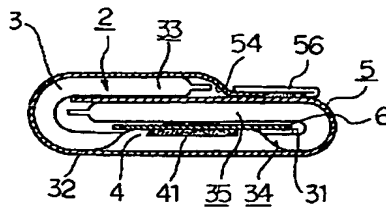
【符号の説明】

1	生理用ナプキンの包装構造
2	生理用ナプキン
3	本体
3 1	肌当接面
3 2	非肌当接面
3 3	前方部
3 4	ウイング折曲部
3 5	後方部
3 7	本体粘着部
4	ウイング部
4 1	ウイング粘着部
5	包装材
5 1	前端縁
5 2	側縁部
5 3	後端縁
5 4	内面
5 6	タブテープ
6	ウイング粘着部保護部材
6 1, 6 2	端縁部
6 3	接着剤

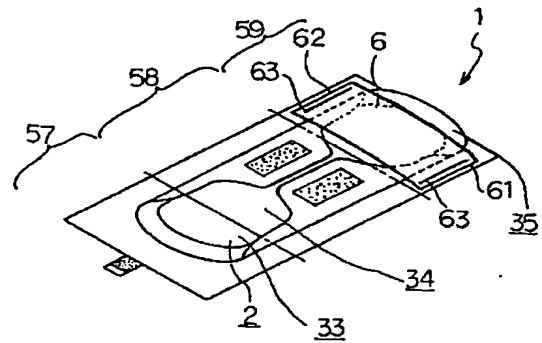
【図 1】



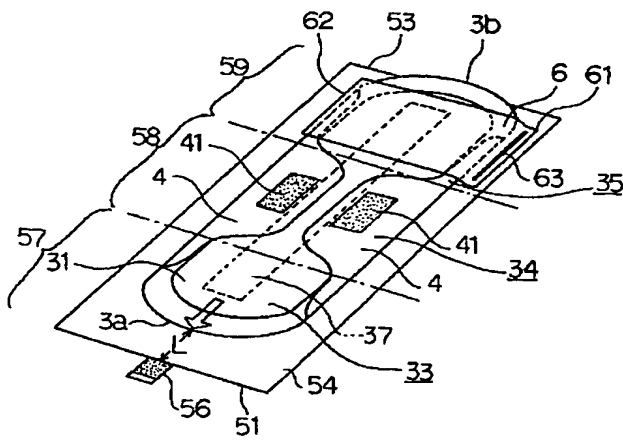
【図 2】



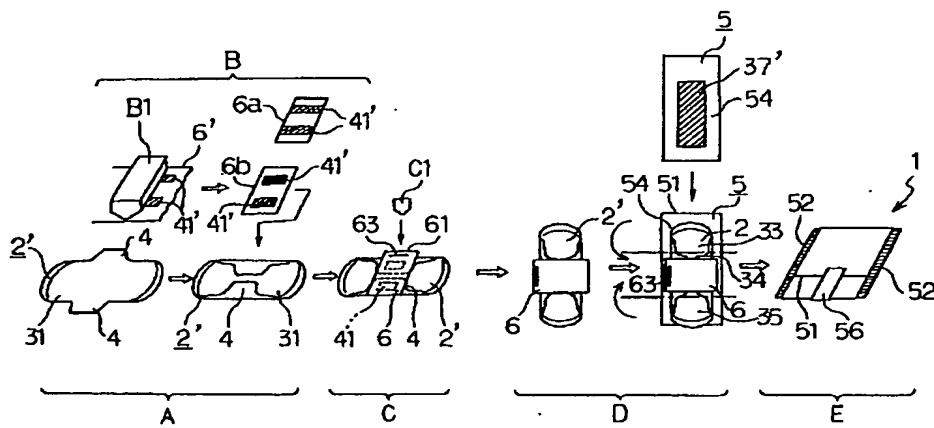
【図 5】



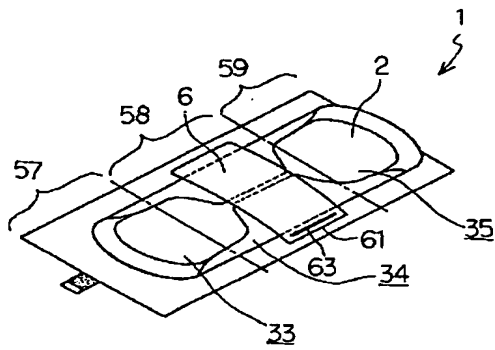
【図 3】



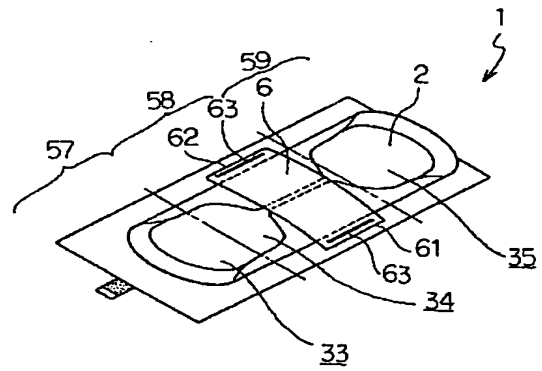
【図 4】



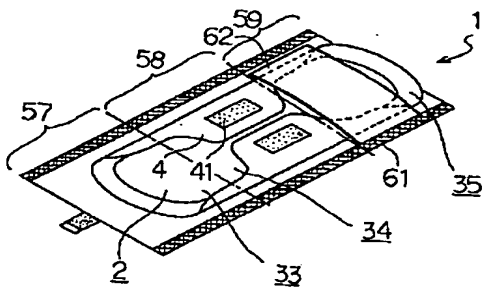
【図 6】



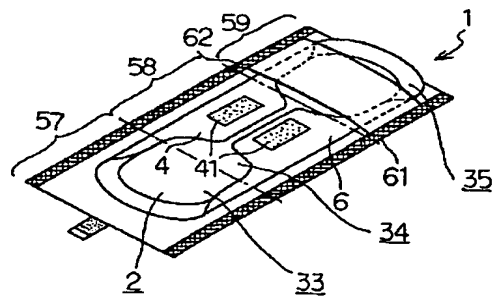
【図 7】



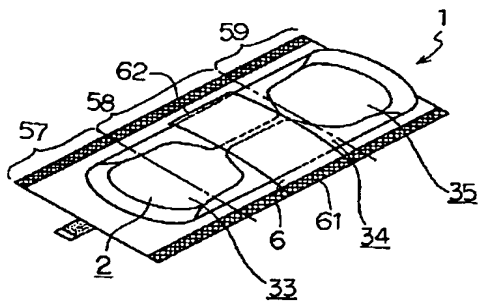
【図 8】



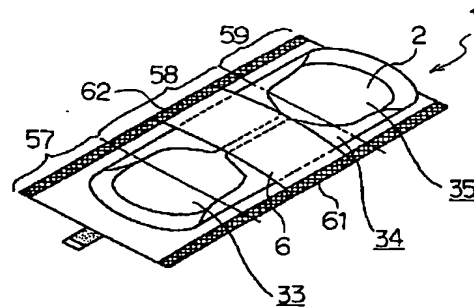
【図 9】



【図 10】



【図 11】



フロントページの続き

(72)発明者 中西 稔
栃木県芳賀郡市貝町赤羽2606 花王株式会
社研究所内